

令和5年度小松市立稚松小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	安心・安全な学校生活の実現に向けて		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が電子メディアの利用に関する正しい知識をもち、健全な利用ができるように、学活や道徳の時間にネットについて取り上げた題材を使った授業を年に1回実施する。</li> <li>・「ネットの我が家のきまり」を各家庭で作成してもらう。</li> <li>・積極的な生徒指導を実践するために、4つの視点を意識した取り組みを「生徒指導通信」として、学期に一度は発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート（メディア利用に関する正しい知識を持ち、健全に利用できるよう使用している）95.8%（A 62.5%、B 33.3%）であった。一学期にはメディアのルールを指導する際、ネットトラブルに関する題材を使った授業に取り組み、児童の意識の啓発を図った。</li> <li>・6月に育松会と連携して、「稚松このきまり～インターネット・ゲーム編」を作成した。「わがやのメディアルール」を各家庭で作成する機会を設けたことで、メディアとの付き合い方を家庭で話し合うきっかけになった。今後はルールが守られるような指導や取り組みをしていく必要がある。</li> <li>・積極的な生徒指導を実践するために、教職員同士が生徒指導の4つの視点を意識しながら研究授業を参観する取り組みを行った。若手の先生も自分の学級経営に生かせる取り組みを見つけることができた。</li> </ul>	
保健体育	望ましい生活習慣の定着		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回生活習慣チェックを行い、「寝る時刻を守った」と答えた児童の割合が70%以上を目標にする。</li> <li>・学校保健委員会での「睡眠の大切さ」の取組を通して、寝る時刻を守り、睡眠時間を十分に確保するようにし、望ましい生活習慣に関する指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に実施した生活習慣チェックの結果、「寝る時刻を守った」と回答した児童の割合は74%で目標は達成できている。保護者アンケート（寝る時刻を意識して生活している）の結果も、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と合わせ81%と高い結果であった。チェックシートからは、睡眠習慣の乱れに注意が必要で児童が固定化していることが分かる。集団指導と合わせ、個別の保健指導が必要である。</li> <li>・2学期には、学校保健委員会と連携し、睡眠に関する講演を開催する。</li> </ul> <p>保護者アンケート あてはまる→38% どちらかといえばあてはまる→41% どちらかといえばあてはまらない→16% あてはまらない→5%</p>	
教育相談	教職員間で情報を共有し、組織的な対応の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校につながるような登校渋り等の初期段階から、ケース会議を行うなど組織的に対応を図る。そのために、終礼等で教職員間の情報共有を大切にす。</li> <li>・担任一人が抱え込まず、日常的に職員間で情報を共有し組織的に対応していると感じる職員の割合が80%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケートの肯定的な回答は91.7%であった。その要因として「ブチ気になるカード」として月1回、悩みを担任が一人で抱え込まず些細なことでも情報交換できるシステムを作ることで、組織的に対応したことが考えられる。2学期以降は登校渋り等の初期段階から、適切にケース会議を行い、教職員間で情報共有を密にし、アンテナを高くして組織的に対応の推進を図っていく。</li> </ul>	
GIGA推進	GIGAスクール構想の充実		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGA校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を進め教員のICT活用指導力を高める。学習用端末の使用回数を増やし、効果的な活用を目指す。</li> <li>・毎月1回以上校内研修を行う。</li> <li>・教員アンケート「児童生徒は、コンピューターなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために活用している」肯定的な回答95%以上</li> <li>・児童アンケート「学校で、コンピューターなどのICT機器（タブレット）を、他の友達と意見をこうかんしたり、調べたりするために使っていますか」肯定的回答95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケートの肯定的な回答は100%（A41.7%、B58.3%）、児童アンケートの肯定的な回答は96.5%（A58.1%、B27.9%）であった。学年別スキル表の共有や、教職員の技能に合わせた校内研修（Forms、Teams等）を計画通りに進めることができていた。</li> <li>・教員アンケートの肯定的な回答のうちA回答が41.7%であった。今後更に効果的で積極的な活用に向けて必要のある校内研修や、教育環境整備（特別教室や体育館への大型モニターの設置）を行う。</li> </ul>	
道徳教育	道徳科の授業を中心とした道徳教育の充実		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1以上、授業参観等の機会に保護者に向けて道徳の授業を公開する。</li> <li>・家庭との連携強化のために、道徳での取組を「学校だより」等を通じて学期に一度は発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に、13クラスが、道徳を授業参観で公開することができた。道徳授業のさらなる充実に向けて、夏季休業中に研修を行う。</li> <li>・1学期は「学校だより」で道徳の取り組みを発信することができなかった。2、3学期に発信していきたい。</li> </ul>	
読書教育	読書活動の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よんでみて文庫」「よんでみて+（プラス）」を各クラスに置き、児童の読書量をその子なりに増やす。</li> <li>・図書室で本に関するイベントを学期に1回以上は行い、来室の増加や読書活動の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスに「よんでみて文庫」「よんでみて+」を配置した。よんでみて文庫カードを作成し、読書の足跡（読んだ日、おすすめ度）を記録していった。目標読書冊数を達成した児童にはシールを貼っていき、読書量を増やそうにした。</li> <li>・図書室では、図書みくじや人気の本ランキング等のイベントを行った。イベントをした時の来室者は、高学年になるほど増加傾向にあり、普段より3割程度増えた。</li> </ul>	
特別支援教育	学習に課題を抱える児童へのアプローチ		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に直結した学習プリントやヒントが多く取り組みやすいプリントを準備し、共有する。</li> <li>・児童の実態を把握するために、担任等と連携し、専門員派遣や就学相談等につなげ、よりよい学習環境を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントやヒントが多く取り組みやすいプリントを『特別支援のフォルダー』に入れ、共有することができた。また、個に応じて、特学で使用している漢字シートを貸し出したり、プリント集を紹介したりした。</li> <li>・担任等と情報を共有し、保護者懇談や校内支援委員会を開催し、専門員派遣に5件、就学相談に3件つなげることができた。まだ、悩んでいる担任や保護者もいるため、今後も引き続き、学習環境の改善や相談を続けていきたい。</li> </ul>	
家庭・地域との連携	地域の特性を生かしたSDGs教育の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SDGs1校1プラン」を基に、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材、地域教材の開発を行い、地域を理解し、地域を誇りに思う心情を高める探究学習を積極的に推進する。（地域人材・地域教材の活用）</li> <li>・総合的な学習の時間等に地域の人材を活かし、本物から学ぶ学習を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材・地域教材の活用に努めている教員100%（A62.5% B37.5%）と高い結果となった。「稚松を未来に伝えよう」をテーマに各学年が「SDGs1校1プラン」を元にした学習を進めることができた。具体的にはお祭りを取り入れた『歌舞伎の町こまつ』（3年）、小松市の歴史や伝統を学ぶ「受け継ごう自慢のふるさと（6年）」等地域の特色を生かした探究学習ができた。創立150周年に向け、児童が学んだことを発信する場を設け、より稚松を誇りに思う心情を高める学びを推進する。</li> <li>・和菓子体験（行松旭教室）、サイエンスヒルズによる理科実験、等、地域人材や本物から学ぶ機会を取り入れた。今後は積極的に取り入れていく。</li> </ul>	

【第1回 学校関係者評価委員会】  
 ・（評価委員）GIGA教育の推進は大変良い。一方で漢字を書く能力が維持できるのか心配でもある。手書きの良さも伝えて欲しい。→（学校）これからは漢字が使えるような指導をしていきたい。学習用端末で考えるのか、ノートで考えるのかを選択できる力も育みたい。  
 ・（評価委員）児童が学校で見せる顔とほかの場で見せる顔に違いがある。どの場でも場をわきまえて行動できる力をつけられるよう連携を深めていきたい。

